月　日 名前　　／100点

【答え】

【小6】国語 文章問題　物語文 3

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

兄が高校生になって、部屋にギターがやって来た。夜になると、かべの向こうから、同じところで何度もつっかえる音が聞こえてくる。正直に言うと、少しうるさかった。

ある日、兄のいない間に、こっそり部屋に入ってギターにさわってみた。思ったよりずっと重い。げんをおさえると、指先にするどいいたみが走った。こんなものを、兄は毎日ひいているのか。

その夜、夕食のとき、ぼくは兄の左手を見た。指先が、かたく、白っぽくなっている。

「その指、どうしたの。」

「ああ、これ。ひいてるうちにかたくなるんだよ。はじめは血が出た。」

兄は、何でもないことのように言って、ご飯をかきこんだ。

ぼくは、はしを持ったまま、しばらく動けなかった。かべの向こうのつっかえる音は、うるさい音ではなかったのだ。あれは、いたみをこらえながら、同じところを何度もくり返している音だった。

それからぼくは、夜の音が気にならなくなった。むしろ、つっかえていたところが、ある晩、するりと通りぬけたとき、思わずかべの前で小さく手をたたいていた。

次の日の朝、兄に「きのう、あそこ、ひけてたね。」と言うと、兄はびっくりした顔をした。

「聞いてたのかよ。」

兄は、少しむっとした声で言った。けれど、その耳は、まっ赤になっていた。

（この問題のための書き下ろし）

問一　ぼくがギターのげんをおさえたとき、指先に何を感じましたか。本文から十字までで書きぬきましょう。

す	る	ど	い	い	た	み			

問二　「しばらく動けなかった」とありますが、このときのぼくの様子として、いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア　ギターにさわったことが兄にばれないか、心配している。

イ　兄が食事中に話をしたので、あきれている。

ウ　兄が血が出るほどのいたみにたえて練習していたと知り、おどろいている。

ウ

問三　ぼくにとって、かべの向こうの音の聞こえ方は、どのように変わりましたか。四十五字までで書きましょう。

は	じ	め	は	う	る	さ	い	音	だ																
っ	た	が	、	兄	が	い	た	み	を																
こ	ら	え	て	く	り	返	し	練	習																
し	て	い	る	音	に	変	わ	っ	た																
。																									

問四　「その耳は、まっ赤になっていた」から分かる兄の気持ちとして、いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア　夜おそくまで練習して、つかれている気持ち。

イ　聞かれていたことがはずかしいが、気づいてもらえて本当はうれしい気持ち。

ウ　弟にぬすみ聞きされて、本気でおこっている気持ち。

イ

【小6】国語 文章問題　物語文 3　答えと解説

問一（二十五点）　答え：するどいいたみ

解説：二つ目のまとまりから。このいたみを知ったことが、あとで兄の指を見たときの気持ちにつながる。

問二（二十五点）　答え：ウ

解説：すぐあとの「あれは、いたみをこらえながら、同じところを何度もくり返している音だった」から。ぼくは自分でげんをおさえて、そのいたみを知っていた。

問三（二十五点）　答えの例：はじめはうるさい音だったが、兄がいたみをこらえてくり返し練習している音に変わった。

解説：一つ目のまとまりと、七つ目・八つ目のまとまりをくらべる。前と後の両方が書けていれば正かい。

採点のポイント（二つそろって満点、一つなら半分）

①はじめは、うるさい音だと思っていた

②兄がいたみをこらえて練習している音だと分かった（おうえんしたくなる音になった）

問四（二十五点）　答え：イ

解説：声は「むっとした」ようでも、耳が赤くなっている。言葉と様子がちがうところから、本当の気持ちを読み取る。

free-print.net　|　文章・問題は free-print の書き下ろし　|　学校・塾での印刷・配布は自由です